

左手はなかなかゆうことを利かないだからあてにしないことにしている。ところが、普段かなり働いていることが判明した。たとえば、二階の上り下りには左手も手摺に掴まって協力していた。また、靴も、靴下を履くのに協力してくれる。また、トイレの後のズボンを整えることもなくてはならない。左手の活躍。

微妙な動きができなくてもこのように結構働いてくれている。怪我をしてそのありがたみがしみじみと分かった。事件の発生はこうだ。居間から和室に行こうとして、唐紙を開けて左足を一步踏み入れた途端グラときて踏み止めようとするひまもなく後方に倒れた。結果的に分かったことだが、なぜかバンザイの格好で倒れた。左薬指が骨折。障子のサンが折れ障子が破れた、破る子供もいないのに。

医者に大層な包帯をしてもらい人目をひく。いきいきデイサービスでは重要参考人扱い、重要参考人は警察では犯人かもという目で見ると同じように私がよたよたと立つと、あたかもパトカーが飛んでくるようにデイサービスのスタッフが「何処行きますか」トイレと言えば一緒にいきましょうと言って保護観察となる。

左手はもともとあてにしていなかったからいいと思っていたが、そうではなかった。今、左手は完全に使えない。不便は更に不便になった。



左薬指骨折 18/12/12 Hidekuro

間借り人だったそんな新婚時代と何十年も経った今もあまり部屋でボーとしていると突然掃除機が突入してくるとたまらず逃げ出すこのときの気分は居候か変っていない、掃除が始まると私の居場所はない。居間をはじめ1階を息子が掃除機をかける。寒波が押し寄せるときストーブはいやおうなしに切られその上邪魔者扱い、そうだ2階のベットでソフトあんかをつけてしばらくやすんだらこの嵐もおり過ぎるだろう。左手薬指骨折で右手だけで手摺に掴まりやっこさ踊り場まで上がって見るとかみさんが窓全開にして布団ととりくんでいる。「ここはしばらく使えませんよ」とのたまう。私は何処え行けばいいんだ。階段の踊り場で考えた。

「そうだ京都に行こう」ではなく「1階のトイレに行こう」人感センサー付きのヒータをいれたばかりのトイレがあった。

ここは、入るだけで暖かい。とまあこんな具合に1日が始まった。

居場所を求めて 18/12/30 Hidekuo



TVを観ようと居間に入るとオットマンがパンツを履いている。これはなんじゃい。訳を訊くとLLパンツを買えども何れもゴムが強く気に入らないとのこと。そこでゴムを伸ばしてはどうかということになりオットマンの出番とあいなった。オットマンの背あてが格好だということらしい。息子は独身貴族であるが、世間で言うほどの貴族ではない。その息子が薄給ながら昼飯をおごるというので食料の購入とついでにパンツの購入とその後の食事会というこれは逃せない。いつもなら私は家で留守番にきまっているのにイタリアンで食事となれば話は別だ万難を排し行くに決まっている。パンツを履いたオットマンからよこらしよと立って身支度する。すばやくする、もたもたではない。食料、とパンツの購入を終えた。さて、昼食会場繰り込んで久しぶりのイタリアンに舌鼓、ドリンク・バーも満足だった。

パンツを履いたオットマン 18/12/24 Hidekuro



朝寝ほど気持ちのいいものはない。冬の部屋がどんなに寒くても、いや、寒ければ寒いほど床の布団の暖かさがありがたい。

左指骨折のため布団の中から足を出して寒いのが靴下をはかせてもらう、ありがたいのだが足が寒い。布団を跳ね除け寒さが押しかける中で靴下を履せてもらうことになる。まあ、仕方ないか。時計は6時過ぎラジオを聴くそのうちとうとうとして、ラジオ体操が始まる。夢の中で体操をしてまた、うとうとがうれしい。そのうちシッカリと寝てしまう。7時前5分か10分前には起きることにしている。

そうでないと「チョコチャンに叱られる」わが家ではかみさんに叱られる。いつまで寝ているの朝ご飯かたずけますよ、とね。ここでオオハラショウスケさんもしかたなしに這い出す。

朝寝 2018/1/2 Hidekuro

